

## 遺伝子の設計から神の実体を探るー3 神とみ子の関係

まず初めに次の聖句を考慮しましょう。

「私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。」(コリント I 8:6)

パウロはここで、み父を「神」、そしてキリストを「主」という別々の称号で表しています。それは例えば「大統領と首相」というような感じで、ちゃんと区別を付けて両者の違いをはっきりさせています。

唯一の神と唯一の主の存在、この両者がそれぞれ唯一の存在であるということは、明らかにここに神と主という2者が存在します。

この2者が本質（実質）において、同一（一人）ということはありません。

明確にその役割は分担され、権能が異なっているからです。

この句を端的に表現すれば「すべては神から出、その出たものは主によって存続している」ということです。

(他の翻訳)

「しかしわれらには唯一の父なる神 [がいるのみ]、その方から万物は出で、われらはその方へと [向かう]。そして唯一の主イエス・キリスト [がいるのみ]、その方によって万物は成り、われらもその方による。」(岩波翻訳委員会訳)

「わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。」(新共同訳)

この句の中で注目したいのは、「神から [出ており]」「神の [ために]」「主に [よって]」と記されている部分です。

「出て」と訳されるギリシャ語は「エク」であり、「・・・の外、他」という意味を付す前置詞としても使われていますが、字義的な意味は「～から」という意味であり、「ために」と訳されている語は「アイス」という語で字義的には「～へ」という意味の語です。

字義的に訳せば、「万物は [神から]」であり、「神へ」なのです。」という風になります。

後半の「主に [よって]」という語は「ディーア」という語で、「～を通して、～のため」という意味の語です。数多く出てくる「預言者によって語られた」とい言うフレーズに用いられています。

あるいは「狭い門を[通って]」(マタイ 7:13)「穀物畑を[通り抜け]」(マタイ 12:1)「私の名の[ために]・・・人々に憎まれます。」(マタイ 10:22)などのように、原因や源が別があり、その途上、中継、ターゲットに注意を向ける語です。これは他ならぬ神(み父)がみ子を通して、万物も人も存在するようにされたということです。

「御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。なぜなら、万物は御子にあつて造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって(ギ語:ディーア)造られ、御子のために(ギ語:アイス)造られたのです。御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあつて成り立っています。」(コロサイ 1:15 - 17)

「初めに言があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。この言は、初めに神と共にあつた。万物は言によって成つた。成つたもので、言によらずに成つたものは何一つなかつた。言の内に命があつた。命は人間を照らす光であつた。」(ヨハネ 1:1 - 4) (新共同訳)

岩波訳では3節を「すべてのことは、彼を介して生じた。」と訳しています。これは続く7節の中でバプテスタのヨハネがイエスについて証するために到来したことに言及して「すべての人が彼を介して信じるようになるために。」と述べて、同じ「ディーア」という語を用いています。

ですから明らかなように、創造においても、み子は究極的な原因者ではなく、仲介者です。

1:3で「万物は言(ことば)によって成つた。」と表現されていますが、確かに創世記の創造の記録を見ると「言葉」を介して創造の業を行っておられます。

「神は言われた。「光あれ。」こうして、光があつた。」(創世記 1:3)

このように何かを造られるたびに必ず「神は言われた。」から始まります。

私は初めて聖書を読んだときにこれをとて不思議に思いました。

神は一人で創造を行われたのだから、一体誰に「言われた」のか、どうして言葉を発する必要があつたのだろうか。

ともかくみ父は、有言実行の神として創造の際に「言葉」を用いられました。

すべては「言葉」を通して造られたわけですが、確かに言葉の特性である音波(周波数)を特定のベクトルを持って行使するなら物理的な法則によって物事は形作られます。

(原子も、光も、色も、音もみな特定の周波数を持つ波であり(電磁波)固有の周波数で振動しています。)

(これについては別の記事でもう少し詳しく書いてみようと思っています)

さて話がちょっと横道に逸れたので戻しますが、「み父とみ子の関係」に関連するいくつかの聖句を上げておくことにします。

(ヨハネ 16:15)... 父が持つておられるものはみな、わたしのものです。...

(ヨハネ 1:18)... 父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。...

(ヨハネ 10:30) ... わたしと父とは一つです ...

(ヨハネ 14:9)... わたしを見た者は、父をも見たのです ...

「神とみ子の関係」について書いてきましたが、この話のまとめとして、今一度冒頭に挙げたコリント I 8:6 を引用します。

「私たちに、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。」(コリント I 8:6)

ここから分かるのは、神は創出、つまり無から有を存在せしめた原因者であり、み子はその存在を存続もしくは永続せしめる方であると言い換えることができるということです。ここにも、遺伝子の法則や、命のメカニズムと同じ法則が働いていると言えるのではないのでしょうか。

つづく

遺伝子の設計から神の実体を探る－4 子なる神と人との関係